

2021 年度「FDを推進するための活動補助」報告書

札幌学院大学 学長 殿

2022 年 2 月 28 日

(申請者名) 松 井 光 一	(複数で申請の場合、参加教員の氏名)
(科目名) 子どもの体育Ⅰ・Ⅱ	
(取組の趣旨、実施計画、今年度の達成目標) の報告 <趣旨> 今私たちが生きている時代は、コロナ禍における教育内容の構築に象徴されるように、今まで経験したことのない出来事に対しても対応できる資質・能力が求められている。その中心となるのは、テストで測定できる「認知能力」だけではなく、「やり抜く力 (GRIT)」や意欲・向上心、コミュニケーションスキルや共感性など「非認知能力」と言われる資質・能力であるとして注目されている。非認知能力は、現在いろいろな識者が多岐にわたり多くの内容を研究し発表している。私は SGU 教師教育研究第 34 号において、「やり抜く力 (グリット)」について簡単な分析をしているが、評価スケールが外国のものであるため別のスケールを探していた。 そこで今回は岡山大学の「成果外活動支援のための非認知能力アセスメント項目 (簡易版) (15 項目)」を使用し、本学新入生に実際にどのような支援をしていけばよいかを探っていきたい。このアセスメント項目は、5 項目ずつ「自分と向き合う力 (自制心・忍耐力・レジリエンス (回復力) などの測定群)」、「自分を高める力 (意欲・向上心・自信・自尊感情・楽観性などの測定群)」、「他者とつながる力 (共感性・協調性・社交性・コミュニケーション力などの測定群)」の 3 群に分かれている。 <実施計画> 1 小学生の体育授業を学ぶ「子どもの体育Ⅰ (前期) 履修者 38 名」「子どもの体育Ⅱ (後期) 履修者 37 名」において次のように実施した。 ①「子どもの体育Ⅰ」前期第 2 回 (15 回中) (4 月 20 日) の講義にて、別紙「非認知能力アセスメント項目 (簡易版)」岡山大学中山芳一氏作成を配布その場で記入 ②「子どもの体育Ⅱ」後期 11 月の講義にて、同紙に記入。(前期の子どもの体育Ⅰに遠隔が多かったため) ③「子どもの体育Ⅱ」後期第 15 回 (15 回中) (1 月 18 日) の講義にて同紙に記入 ※「子どもの体育Ⅰ」の講義は第 1 回から第 4 回目までが対面、その後 5 回目から 12 回目まで遠隔の講義となった。(13 回目から 15 回目は対面で行った。) ※「子どもの体育Ⅱ」の講義は 15 回すべて対面で行った。 <今年度の達成目標> (4 月 20 日)「子どもの体育Ⅰ」前期第 2 回 (15 回中) の結果と、(1 月 18 日)「子どもの体育Ⅱ」後期第 15 回 (15 回中) の結果とで差異が見られるか。その差異は子どもの体育の授業内容によって生じたものかなど分析する。	
(期待された効果、他の授業科目への適用可能性) の報告 <実施結果> 4 月 20 日の 1 回目の調査項目全 15 項目測定値の平均は、1.80 であった。1 月 18 日の 3 回目の測定値の平均は、1.82 となった。この差 0.02 について、アセスメント項目が 1 つ左右にずれるためには、約 0.07 の差が必要である。したがって、0.02 は 1 つずれる (0.07) よりも小さいため、1 回目と 3 回目の集団の平均値としての差はほとんどないことが分かった。 しかし、個人の調査項目第 1 回目と第 3 回目を比較すると、最大 +16.2 から -15.2 までの差がみられた。15 項目すべてにおいて 1 つずれるほどの差が表れた学生が出現した。 プラスマイナスそれぞれ顕著な学生を 5 人ずつを抽出し、1 年間の振り返りの個人評価を見た。どの学生も講義を終えて 4 月よりも「自分が成長した、体育が好きになった等」肯定的な記述しかみられなかった。 このアセスメント項目は、5 項目ずつ「自分と向き合う力 (自制心・忍耐力・レジリエンス (回復力) などの測定群)」、「自分を高める力 (意欲・向上心・自信・自尊感情・楽観性などの測定群)」、「他者とつながる力 (共感性・協調性・社交性・コミュニケーション力などの測定群)」の 3 群を測定するものである。 そこでこの 3 つの群の平均値を出し、1 回目と 3 回目で比較してみると、次のような値となった。 「自分と向き合う力 (自制心・忍耐力・レジリエンス (回復力) など)」、	

<p>1回目(4月20日) 1.916 3回目(1月18日) 1.90 差 0.016 「自分を高める力(意欲・向上心・自信・自尊感情・楽観性など)」 1回目(4月20日) 1.918 3回目(1月18日) 1.972 差 0.054 「他者とつながる力(共感性・協調性・社交性・コミュニケーション力など)」 1回目(4月20日) 1.602 3回目(1月18日) 1.60 差 0.002 5小目の1回目と3回目との差はほとんどないが、3つの項目群を横で比較すると、「自分と向き合う力」及び「自分を高める力」の差が0.3となっており、項目のずれにすると4.3項目となる。「他者とつながる力」がほかの力よりも高く出ている。</p> <p><期待された効果と他の授業科目への適用可能性> 4月と翌年1月との「非認知能力」項目の測定差は、ほとんどなかった。子どもの体育Ⅰ・Ⅱの合わせて30回の講義程度ではその直接的な影響はほとんどなかったといえる。しかし、個人での「非認知的能力」項目の差が大きい学生と30回の授業カードの内容等から、個人の思いを知り教師がいかに関わり支援していくかはとても大切なことであることがわかった。 項目別の差が明らかになった対象学生の「他者とつながる力」の高さについては、コミュニケーション等の力の良さにとらえるか、他人を気にする自信のなさにとるかは不明である。 今後、「対象学生の拡大(人数・多学年)」をすること、また「自己を振り返る記述欄」を設けること等、さらに工夫していくことで、学生が自分に自信を持ち非認知能力を高めていく姿を少しでも明らかにしていきたい。また、その課題を少しずつ解決していくことで他の学年でも適用可能であるか探していきたい。</p>								
<p>(所要経費及び実施時期)の報告 データ処理及び個人情報保護のための専用ハードディスク、個人データ用USBメモリーを年度当初に購入した。 資料用紙、対面授業で行うためのコロナ対策グッズ、事務用消耗品を購入した。</p>								
<p>(執行経費内訳)</p> <table border="1"> <tr> <td>・データ処理のための専用ハードディスク ¥20,000</td> <td>・個人データ用USBメモリー ¥42,000</td> </tr> <tr> <td>・調査、講義カード等資料印刷の用紙代 ¥9,690</td> <td>・その他事務用消耗品 ¥12,890</td> </tr> <tr> <td>・対面授業で行うためのコロナ対策費用(マスク・フェイスシールド・消毒薬等) ¥11,400</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合 計 95,980円</td> </tr> </table>	・データ処理のための専用ハードディスク ¥20,000	・個人データ用USBメモリー ¥42,000	・調査、講義カード等資料印刷の用紙代 ¥9,690	・その他事務用消耗品 ¥12,890	・対面授業で行うためのコロナ対策費用(マスク・フェイスシールド・消毒薬等) ¥11,400		合 計 95,980円	
・データ処理のための専用ハードディスク ¥20,000	・個人データ用USBメモリー ¥42,000							
・調査、講義カード等資料印刷の用紙代 ¥9,690	・その他事務用消耗品 ¥12,890							
・対面授業で行うためのコロナ対策費用(マスク・フェイスシールド・消毒薬等) ¥11,400								
合 計 95,980円								

記述欄が不足する場合は、拡張して下さい。